

令和5年度

柔道専門部

の

手引き

埼玉県中学校体育連盟柔道専門部

目 次

【組織に関すること】

○専門委員・常任委員・幹事名簿	・・・	1
○都市専門委員名簿	・・・	3
○専門部役員組織表	・・・	4

【年間行事予定】

○中体連柔道専門部年間行事予定	・・・	5
○埼玉県柔道連盟年間行事予定	・・・	6

【大会出場に関すること】

○埼玉県中学校体育連盟柔道専門部申し合わせ事項	・・・	7
○埼玉県中学校体育大会出場規定	・・・	12
○埼玉県中学校体育大会への地域スポーツ団体等（地域クラブ活動）の参加資格等の特例について	・・・	13
○埼玉県中学校体育大会保護者引率細則	・・・	15
○外部指導者の規定	・・・	16
○監督・外部コーチの大会参加心得	・・・	17
○試合場におけるコーチの振る舞いについて	・・・	18
○選手・応援者及び一般応援者のマナー	・・・	19
○県大会応援席地区別割り振り表	・・・	20

【抽選に関すること】

○代表者会議における抽選に関する要項	・・・	21
○組み合わせ抽選会の流れ	・・・	24
○出場定数一覧	・・・	25

【大会運営に関すること】

○学校総合体育大会タイムテーブル	・・・	26
○新人兼県民総合スポーツ大会タイムテーブル	・・・	29

【審判に関すること】

○国際柔道連盟試合審判規定 国内における「少年大会特別規定」	・・・	31
○少年大会における「両袖を持って施す投げ技」の取扱いについて	・・・	33
○全国中学校柔道大会の審判規定ならびに個人戦の勝敗決定方法について	・・・	34
○柔道衣の乱れに対する新たな罰則（指導）の施行について	・・・	35
○攻防に関係の無い行為で、相手の柔道衣を乱す行為	・・・	36
故意に相手の足を踏みつけて技を仕掛ける及び故意に相手の頭髪を掴んで技を仕掛ける行為		
○中学生の試合における絞技の取り扱い並びに国内における「少年大会特別規定への反映」	・・・	37
○IJF Refereeing Rules update Olbia 2021【主な変更内容】	・・・	38
○国内における「少年大会特別規」の判断事例	・・・	40

令和5年度 県中体連柔道専門部 行事予定

月	日	曜	大会名	その他事業名	会場	時間	武道館借用					
							主道場	第一道場	第1・2会議室	第3会議室	弓道場	相撲場
4	15	土		強化練習会	県立武道館	9:00~		9:00~17:00				
	26	水		柔道専門委員会	県立武道館	14:00~			13:00~17:00			
5	5	金		関東中学校柔道錬成会(練習試合)	県立武道館	8:00~	8:00~21:00					
	6	土		関東中学校柔道錬成会(合同練習)	県立武道館	9:00~		9:00~17:00				
	23	火		関東中学校柔道大会第1回実行委員会	県立武道館	14:00~			13:00~17:00			
	27	土		強化練習会	県立武道館	9:00~		9:00~17:00				
7	11	火		学総プログラム作成委員会	県立武道館	13:15~			17:00~21:00			
	17	月		学校総合体育大会準備	県立武道館	14:30~ <small>(行事開始7分前)</small>	17:00~21:00					
	18	火	学校総合体育大会	団体戦	県立武道館	8:00~	8:00~21:00	8:00~21:00	8:00~21:00			
	24	月	学校総合体育大会	女子個人戦	県立武道館	8:00~	8:00~21:00	8:00~21:00	8:00~21:00			
	25	火	学校総合体育大会	男子個人戦	県立武道館	8:00~	8:00~21:00	8:00~21:00	8:00~21:00			
	27	木		強化練習会	県立武道館	9:00~		9:00~17:00				
	27	木		関東・全国調整会議	県立武道館	10:00~				9:00~21:00		
	28	金		関東中学校柔道大会第2回実行委員会	県立武道館	14:00~			9:00~21:00	9:00~21:00		
8	1	月		関東中学校柔道大会抽選会準備	県立武道館	9:00~				9:00~21:00		
	2	水		関東中学校柔道大会抽選会	県立武道館	8:00~				8:00~21:00		
	2	水		強化練習会	県立武道館	9:00~		9:00~17:00				
	5	土		関東中学校柔道大会準備会	県立武道館	9:00~				9:00~21:00		
	7	月		関東中学校柔道大会前日準備	県立武道館	8:00~	8:00~21:00	8:00~21:00	8:00~21:00	8:00~21:00	8:00~21:00	8:00~21:00
	8	火	関東中学校柔道大会	計量・贈会膳	県立武道館	8:00~	8:00~21:00	8:00~21:00	8:00~21:00	8:00~21:00	8:00~21:00	8:00~21:00
	9	水	関東中学校柔道大会	開始式・個人戦	県立武道館	8:00~	8:00~21:00	8:00~21:00	8:00~21:00	8:00~21:00	8:00~21:00	8:00~21:00
	10	木	関東中学校柔道大会	団体戦・閉会式	県立武道館	8:00~	8:00~21:00	8:00~21:00	8:00~21:00	8:00~21:00	8:00~21:00	8:00~21:00
	11	金		関東中学校柔道大会片付け	県立武道館	8:00~	8:00~13:00	8:00~13:00	8:00~13:00	8:00~13:00	8:00~13:00	8:00~13:00
	12	土		強化練習会	県立武道館	9:00~		9:00~17:00				
	17	木	全国中学校柔道大会	閉会式・女子団体戦	徳島県鳴門市							
	18	金	全国中学校柔道大会	男子団体戦	徳島県鳴門市							
	19	土	全国中学校柔道大会	女子個人戦	徳島県鳴門市							
20	日	全国中学校柔道大会	男子個人戦・閉会式	徳島県鳴門市								
9	20	水		柔道常任委員会	県立武道館	14:00~			13:00~17:00			
10	未定	未定		関東中学校柔道大会第3回実行委員会	未定	14:00~						
	11	水		新人プログラム作成委員会	県立武道館	13:15~			17:00~21:00			
11	5	日	新人スポーツ大会準備	※前事業終了後から準備	県立武道館	16:00~	17:00~21:00					
	6	月	新人スポーツ大会個人		県立武道館	8:00~	8:00~21:00	8:00~17:00	8:00~21:00			
	7	火	新人スポーツ大会団体		県立武道館	8:00~	8:00~21:00	8:00~17:00	8:00~21:00			
	25	土		強化練習会	県立武道館	9:00~		9:00~17:00				
12	9	土		強化練習会	県立武道館	9:00~		9:00~17:00				
1	5	金		強化練習会	県立武道館	9:00~		9:00~17:00				
	6	土		強化練習会	県立武道館	9:00~		9:00~17:00				
	9	火		利用調整会議	県立武道館	13:00~						
	26	金		柔道常任委員会	県立武道館	14:00~			13:00~17:00			
2	17	土		強化練習会	県立武道館	9:00~		9:00~17:00				
3	2	土		強化練習会	県立武道館	9:00~		9:00~17:00				

2023年度(令和5年)埼玉県柔道連盟行事予定表(県内・県外)

2023/5/4(確定)

月	日	曜	会場	主催	月	日	曜	会場	主催
4	1	土	埼玉県柔道小学生強化練習会	県武第一道場	4	1~2	土~日	全日本選抜体重別選手権	福岡国際センター
	9	日	昇段審査(浦和男・女各段)	県武第一道場		23	日	全日本カデ体重別選手権大会	大阪府
	16	日	昇段審査(男2段女初段)	川越、熊谷		28	金	皇后盃全日本女子選手権大会	横浜武道館
						28	金	全国柔道高段者大会	講道館
5	3	水・祝	埼玉県柔道大会	県立体育センター	5	4~5	木・金	全国少年大会	講道館
	4	木・祝	埼玉県柔道連盟総会	東天紅		7	日	関東柔道連合会総会	プリムローズ有馬
	8~10	月~水	関東高校柔道大会予選会	県武主道場		28	日	関東学生優勝大会(前日準備)	県武主道場
	7	日	埼玉県小学生柔道強化練習会	県武第一道場					
	14	日	スポーツフェア2021(武道種別)	県武全道					
	21	日	県ジュニア体重別選手権大会(前日準備)	県武主道場					
	28	日	埼玉県選抜柔道大会・少年大会	深谷市					
6	10	土	特別国民選手権大会(少年男女・成年男女)	県武第一道場	6	3~4	土~日	全日本実業団体対抗大会	三重県国分市
	11	日	昇段審査男2段女初段(浦和男・女3段~5段)	3地区審査会		2~4	金~日	関東高校柔道大会	茨城県
	12~13	月~火	全国高校総体予選会(個人)	県武主道場		10	土	全日本柔道「形」競技大会	講道館
	18	日	小学生学年別柔道大会(前日準備)	県武主道場		10	土	関東ジュニア組合せ会議	スポーツ総合センター
	19	月	全国高校総体予選会(団体)	県武主道場		17	土	関東連Bライセンス学科試験	スポーツ総合センター
7	9	日	六段昇段候補者書類審査	さいたま市	7	2	日	関東ジュニア大会(男女、前日準備)	県武主道場
	18	火	学校総体柔道大会(団体戦)	県武主道場		2	日	全柔連Aライセンス実技試験	県武主道場
	24	月	学校総体柔道大会(女子個人)	県武主道場		22~24	土~月	金鷲旗高校大会	県武主道場
	25	火	学校総体柔道大会(男子個人)	県武主道場		28~30	金~日	関東ブロック柔道小学生強化合宿	県武道館
	17	月	講道館「形」講習会	県武第一道場		30	日	全日本少年少女武道競成大会	日本武道館
	22	土	埼玉県小学生柔道強化練習会	県武第一道場					
8	13	日	昇段審査男2段女初段(浦和3段男子・女子)	3地区審査会	8	8~10	火~木	関東中学校柔道大会	埼玉県
						8~12	火~土	全国高校総合体育大会柔道競技	北海道
						17~20	木~日	全国中学校柔道大会	徳島県
						6	日	関東柔道高段者大会	埼玉県
						20	日	特別国民関東ブロック大会(前日設営)	平成国際大
						26~27	土~日	関東近県高校柔道競成大会	県武主道場
						27	日	全国小学生学年育成プロジェクト	横浜武道館
9	2	土	埼玉県小学生柔道強化練習会	県武第一道場	9	2	土	関東六段昇段書類審査会、理事会	スポーツ総合センター
	3	日	県民総合スポーツ大会都市対抗	県武第一道場		5	火	全国警察選手権大会	日本武道館
	3	日	県高段者大会	県武第一道場		9~10	土~日	全日本ジュニア体重別選手権大会(前日準備)	県武道館
	17	日	第1回全柔連指導者養成準Cポイント講習会	県武第一道場		17	日	マルちゃん杯全日本少年柔道大会	東京武道館
	17	日	埼玉県柔道道場大会	北本市体育館		16	土	関東六段昇段「形」審査	県武第一道場
	23	土	あそびどろ	上見イオン					
	21	土	埼玉県小学生柔道強化練習会	県武第一道場					
10	22	日	昇段審査男2段女初段(浦和3段男子・女子)	3地区審査会	10	9/30~1	土~日	全日本学生体重別選手権大会	日本武道館
	29	日	第2回全柔連指導者養成準Cポイント講習会	県武第一道場		14~16	土~月	特別国民体育大会(柔道)	鹿児島県
						21~23	土~日	全日本学生体重別団体優勝大会	ベロニカ総合体育館
						23	月	全国警察大会	日本武道館
11	11	土	埼玉県小学生柔道強化練習会	県武第一道場	11	4~5	土~日	講道館杯全日本体重別選手権大会	千葉県
	6~7	月~火	新人兼県民総合スポーツ大会	県武主道場		23	木・祝	全日本産業別大会	講道館
	12	日	昇段審査候補者書類審査	さいたま市					
	20~21	月~火	県高校新人大会(団体)	県武主道場					
	5	日	第1回全柔連指導者養成Bポイント講習会	県武主道場					
	26	日	第2回全柔連指導者養成Bポイント講習会	県武第一道場					
12	2	土	埼玉県小学生柔道強化練習会	県武第一道場	12	2~3	土~日	グランドスラム東京	東京都
	3	日	埼玉県柔道「形」競技大会	県武第一道場		9	土	関東理事・各県理事・事務局局長会議	プリムローズ有馬
	10	日	昇段審査男2段(浦和3段男子・女子)	3地区審査会		17	日	文武両立杯全国高校大会	講道館
	17	日	第3回全柔連指導者養成Bポイント講習会	県武第一道場					
	24	日	埼玉県学生柔道大会	県武第一道場					
1	4	木	武道館初稽古	県武全道	1	28	日	関東「形」競技大会	埼玉県
	4	木	埼玉県小学生柔道強化練習会	県武第一道場					
	7	日	賀賀交歓会・六段昇段祝賀会	清水園会館					
	7~8	日~月	県高校選手権大会(個人・団体)	県武主道場					
	20	土	全柔連「審判」講習会Cライセンス筆記試験	県武第一道場					
2	11	日	昇段審査(浦和男・女各段)	県武主道場	2	3	土	関東選手権大会組合せ会議(オンライン会議)	県武道館
	18	日	昇段審査(男2段女初段)	川越、熊谷		17	土	関東六段昇段伝授式	プリムローズ有馬
	22~23	木~金	埼玉県小学生女子柔道大会	県武第一道場		18	日	第13回東京・関東対抗選抜柔道大会	埼玉県
	25	日	埼玉県柔道紅白試合(前日準備)	県武主道場		24~25	土~日	全日本シニア体重別選手権	堺市
3	17	日	少年柔道選手権全国予選(前日準備)	県武主道場	3	10	日	関東柔道選手権兼全日本関東予選	茨城県
						19~20	火~水	全国高校選手権大会	日本武道館
						23~24	土~日	柔道マガジンは杯全国中学生柔道大会	横浜武道館

埼玉柔連:埼玉県柔道連盟 関東柔連:関東柔道連合会 道場連:埼玉県道場連盟 高体連 中体連 全柔連:全日本柔道連盟 実柔:実業団柔道連盟 埼玉県:埼玉県 大学:大学

令和5年度埼玉県中学校体育連盟柔道専門部申し合わせ事項

- 1 大会 埼玉県中学校体育連盟柔道専門部が主管する大会は、以下の通りとする。
 - (1) 学校総合体育大会兼全国関東中学校柔道大会県予選会（男女団体戦並びに男女個人戦）
 - (2) 新人体育大会兼県民総合スポーツ大会（男女団体戦並びに男女個人戦）
- 2 参加資格
 - (1) 参加者は、埼玉県中学校体育連盟加盟の中学校に在籍し、校長が参加を認めた1校単位で編成されたチームおよび個人、**埼玉県中学校体育連盟事務局へ大会参加申請を行い、認定され当該競技を管轄する中央競技団体もしくは県・市町村競技団体に登録されている県内地域クラブとする。**
 - (2) 年齢は、平成20年（2008年）4月1日以前に生まれた学齢外生徒が参加する場合は、別紙様式による届出を代表者会議で提出する。
 - (3) 前項以外の生徒が参加を希望する場合は、その年度の6月30日までに、各地区中学校体育連盟を通して県中体連柔道専門部に申し出ること。
※参加選手は全日本柔道連盟の競技者登録をしていることが望ましい。
※転入生については以前に住んでいた地区での予選出場がないことを参加の条件とする。
 - (4) 中学校入学後に柔道を始めた1年生の生徒は、個人戦、団体戦ともに地区予選を含め、学校総合体育大会に出場することはできない。
 - (5) **地域スポーツ団体等(地域クラブ活動)の参加細則を以下のように定める。**
県中学校体育連盟柔道専門部(以下県中体連)主催大会における地域クラブ活動等の参加資格特例条件を次の通りとする。
 - ① **公益財団法人全日本柔道連盟(以下全柔連)が定めた令和4年度期間内において、県柔道連盟を通して全柔連に加盟登録を済ませている、加盟登録上届け出をしている所在地の地区中体連予選会から参加することができる。**
 - A. チームとして「団体登録」を済ませている → 団体戦に出場可
 - I. 競技者として「競技者登録」を済ませている → 個人戦に出場可
 - ウ. 同一年度中は、最初に参加した所属チームからの変更は認めない。**※ 中学校部活動の場合、転校等による所属の変更について、一部参加制限がある。**
 - ② **大会の引率・監督・帯同コーチは、全中大会において全柔連公認指導者資格A指導員またはB指導員の資格を有していなければならない。県中体連主催大会においてはC指導員以上の資格を有していなければならない。**
 - ③ **柔道修業期間を6カ月以上経過した中学生のみ、大会に参加することができる。**
 - ④ **大会参加した場合に守るべき条件**
大会の引率・監督権を有している地域クラブ活動等の指導者は、大会参加にあたり、県中体連が主催する説明会や研修会等に必ず出席しなければならない。
 - ⑤ **大会参加を認めない場合**
大会参加にあたり、上記参加資格特例条件に対して虚偽・違反、逃脱行為が発覚した場合は、同一年度の地域クラブ活動等の大会参加資格を取り消し、チーム及び該当所属選手ともに令和5年度内の参加を認めない。
- 3 参加定数
 - (1) 各大会における男女団体戦並びに男女個人戦の参加定数は、埼玉県中学校体育連盟が定期的に行う定数改正時に、県内の設置校調査に基づいて常任委員会で決定する。
 - (2) 学校総合体育大会の個人戦においては、新人体育大会の上位2名の所属する予選母体に、シード枠を与えることとする。該当生徒が転校した場合は、階級変更に関わらず、転校した中学校の予選母体にシード権が移動することとする。（4月の専門委員会でシード枠を確認し、その後の転校の場合は、シード権の移動はなしとする。）
- 4 引率者・監督
 - (1) 参加生徒の引率者及び監督は当該校の校長・教員（非常勤講師は除く）・部活動指導員・**外部指導者・地域スポーツ団体等の指導者**であること。
 - (2) 審判員に準じた服装をすること
 - (3) 引率者の特例
この大会の個人戦への参加について、校長・教員が引率できず校長がやむを得ないと判断した場合に限り「埼玉県中学校体育大会保護者引率細則」により、校長が引率者として承認した保護者の引率を認める。その際、その保護者は試合時において引率責任者として1名ベンチに入ること。団体戦に出場した学校の個人戦における保護者引率は基本的に認めない。
- 5 外部指導者 外部指導者とは、埼玉県中体連が定める外部指導者の条件を満たした者で、1校につき1名（他校と兼ねることは出来ない）を認め、所定の用紙（大会参加申込書）を用いて、代表者会議に提出すること。
外部指導者の条件とは次の通りである。
 - (1) 当該校の校長が認めた者
 - (2) 年間を通じ、日頃から継続して学校の部活動を指導している者

- (3) 中体連の大会運営に関して、理解を示し、協力的な者
- (4) 小・中・高等学校の教職員は、外部指導者として大会登録ができない。
- (5) 審判員に準じた服装をすること

※ 大会運営上支障をきたすと大会本部が判断した場合は、会場より退場をさせることもある。

6 参加制限

(1) 団体戦

- ① 男子チームの人員は、監督1名・コーチ1名・選手7名以内とする。
- ② 女子チームの人員は、監督1名・コーチ1名・選手4名以内とする。

(2) 個人戦

① 学校総合体育大会

ア、男女とも8階級

イ、体重区分は次の通りとする。

・男子	50kg級 (50kg以下)	55kg級 (50kg超～55kg以下)
	60kg級 (55kg超～60kg以下)	66kg級 (60kg超～66kg以下)
	73kg級 (66kg超～73kg以下)	81kg級 (73kg超～81kg以下)
	90kg級 (81kg超～90kg以下)	90kg超級 (90kg超)
・女子	40kg級 (40kg以下)	44kg級 (40kg超～44kg以下)
	48kg級 (44kg超～48kg以下)	52kg級 (48kg超～52kg以下)
	57kg級 (52kg超～57kg以下)	63kg級 (57kg超～63kg以下)
	70kg級 (63kg超～70kg以下)	70kg超級 (70kg超)

② 新人兼県民総合スポーツ大会

ア、男女とも8階級

イ、体重区分は次の通りとする。

・男子	50kg級 (50kg以下)	55kg級 (50kg超～55kg以下)
	60kg級 (55kg超～60kg以下)	66kg級 (60kg超～66kg以下)
	73kg級 (66kg超～73kg以下)	81kg級 (73kg超～81kg以下)
	90kg級 (81kg超～90kg以下)	90kg超級 (90kg超)
・女子	40kg級 (40kg以下)	44kg級 (40kg超～44kg以下)
	48kg級 (44kg超～48kg以下)	52kg級 (48kg超～52kg以下)
	57kg級 (52kg超～57kg以下)	63kg級 (57kg超～63kg以下)
	70kg級 (63kg超～70kg以下)	70kg超級 (70kg超)

7 競技規則

- (1) 国際柔道試合審判規定および同「国内における少年大会特別規定」・埼玉県中体連柔道専門部申し合わせ事項による。
- (2) 試合時間は、団体戦・個人戦とも3分間とする。
- (3) 優勢勝ちの判定基準は次の通りとする。
 - ① 団体試合の個々の試合は、「技あり」又は「指導の差が2以上(僅差勝ち)」以上とする。チーム間の内容が同等の場合は代表戦を行う。代表戦は、任意の選手で行い、本戦3分終了時点で「指導の差が2以上(僅差勝ち)」の場合は本戦で勝敗を決する。代表戦本戦で得点差がない場合はGSにより勝敗を決する。
 - ② 個人戦は、本戦において技による得点差がなく、「指導」差2で試合が終了した場合は、僅差による「優勢勝ち」として、勝敗を決する。「指導」差1以内の場合は、時間無制限、GSによる延長戦を行う。(全中大会のルールに従う。)
- (4) 本大会の延長戦(ゴールデンスコア)の適用は以下の通りとする。
男女団体戦の代表戦及び男女個人戦の全ての試合
- (5) 国際柔道試合審判規定「国内における少年大会特別規定」にある「1. 加えるもの」の「1. 相手の後ろ襟、背部又は帯を握ること」における(注)「中学生の場合、試合者の程度に応じて…」という部分においては2大会とも適用することとする。
- (6) (財)講道館から正式に段位証書が交付されている有段者は黒帯を用いること。

8 計量・柔道衣点検

計量および柔道衣点検は、下記の方法にて行う。

(1) 【計量】

- ① 計量は指定された時間内に行い、それ以外は認めない。
- ② 計量の服装は、男子は下穿き、女子はTシャツと下穿きの着用を認める。
なお、下着の着用は認めるが、包帯サポーター等の着用は一切認めない。
 - ア 団体戦 ○ チームごとに登録選手全員が測定を行うこと。
○ 順番の入れ替え等があった場合は通知する。
 - イ 個人戦 ○ 定められた階級の体重区分内にない者は失格とする。

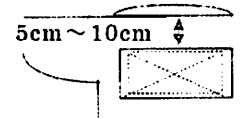
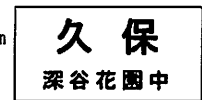
※別室計量が必要なものはあらかじめ申し出ること。

30cm～35cm

(2) 【柔道衣点検】

- ①計量に引き続き服装検査を行う。
②柔道衣に**所属**のゼッケンを縫い付けて出場すること
(応急的対処については別に定める)

25cm～30cm



- ア 布地は白(晒, 太綾)
イ サイズは横 30 cm～35 cm, 縦 25 cm～30cm
ウ 名字(姓)は上側 2/3, 学校名は 下側 1/3
エ 書体は太字ゴシック体を基本とする。男子は黒色, 女子は濃い赤色
オ 縫い付け場所は襟から 5cm～10cm 下部の位置で, 周囲と対角線を強い糸で縫い付ける。
カ 女子は上衣の下に半袖の丸首シャツ(白色)を着用すること。ワンポイントは 20 cm²までの大きさを認める。ただし本県での 2 大会において背部へのプリント等についてはこれを認める。
キ 柔道衣のマーキングについては「国内における柔道衣のマーキングに関する規則」に準ずる。
ク **所属する中学校名もしくは中学校, 地域スポーツ団体等(地域クラブ活動)を象徴するマーク以外を着用して試合に参加することはできない。**

9 競技方法

【学校総体】 (1) 団体戦

- ① 男子 46 チーム (44 チームプラス 2 チーム), 女子 30 チーム (28 チームプラス 2 チーム) の参加によってトーナメント方式で行う。プラス 2 チームとは, 県新人戦決勝進出チームの地区に与えられる枠。ベスト 16 進出チームによる敗者復活戦方式にて関東大会代表校を決定する。
② 2 チーム間における対抗方式は, 男子は 1 チーム 5 人, 女子は 1 チーム 3 人による紅白点取り試合方式で行う。
③ チーム編成は, 男女とも体重の重い者を大将とし, 以下順次体重順とする。交代の選手と入れ替えた場合においても同様に体重順とする。試合毎の選手位置の入れ替えおよび, 一度退いた選手の再出場は認めない。
※選手変更は基本的に, 前試合開始までに所定の場所にて受け付ける。
④ トーナメント方式の順位は, 次の方法によって決定する。
ア チーム間における勝ち数による。
イ アにおいて同等の場合は, 内容により決定する。
ウ イにおいて同等の場合は, 1 名による代表戦により決定する。

(2) 個人戦

- ① 男子各階級 30 名 + 2 名, 女子各階級 22 名 + 2 名までによるトーナメント方式で行う。
② 男子はベスト 8 以上による敗者復活戦, 女子は上位 4 名によるリーグ戦方式で行う。

(3) 敗者復活戦は以下の方法で行う。

- ① 男女団体戦については, シングルレペチャージとする。ベスト 16 に進出した学校のうち, 決勝戦に進出した学校に敗れた学校が, 同チームに敗戦したベスト 8 のチームと対戦する。この対戦に勝利したチームが, 反対側のブロックの準決勝敗退校と対戦する。この対戦に勝利した学校同士で更に対戦し, 勝ちチームは 3 位校として関東大会出場となる。男子において, この試合の敗退校は第 4 位校として関東大会出場となる。
② 男子個人戦については, ダブルレペチャージで行う。準々決勝で敗退した選手 (ベスト 8 の選手) は, 同じブロックで負けた選手同士で敗者復活戦 1 回戦を行い, 勝った選手が別ブロックで準決勝敗退校と対戦する。その勝者同士で, 3 位決定戦 (関東大会代表決定戦) を行う。※同じカードになることもある。

(4) 女子個人戦については, ベスト 4 に進出した 4 名でリーグ戦を行い, 優勝者を全国大会出場者とし, 上位 2 名を関東大会の代表選手とする。

1. ベスト 4 決定までは従来通りトーナメント方式によって行っていく。
2. ベスト 4 が決まった所で, 4 名によるリーグ戦を行って順位を決定する。
3. リーグ戦の進め方については以下の通りとする。
(1) 1 階級 2 試合場を使ってリーグ戦を行う。
(2) 試合順については①から③をする
①1 巡目 A-B C-D ②2 巡目 A-D B-C ③3 巡目 A-C B-D
(3) 同一学校の選手がいた場合, 各階級の 1 巡目に試合を行う。

4. 試合の勝敗の決し方は延長戦まで行い必ず勝敗を決する。
5. リーグの順位決定方法は以下の通りとする。
 - ア 3勝・2勝1敗・1勝2敗・3敗の順とする。
 - イ アで同等の場合は、本戦「一本」による勝ち数の多い者を上位とする。
 - ウ イで同等の場合は、本戦「技有」による勝ち数の多い者を上位とする。
 - エ ウで同等の場合は、本戦「僅差・指導2」による勝ち数の多い者を上位とする。
 - オ エで同等の場合は、本戦「一本」による負け数の少ない者を上位とする。
 - カ オで同等の場合は、本戦「技有」による負け数の少ない者を上位とする。
 - キ カで同等の場合は、本戦「僅差・指導2」による負け数の少ない者を上位とする。
 - ク キで同等の場合は、本戦直接対決の勝者を上位とする。
 - ケ ただし、ゴールデンスコア方式の延長戦における勝敗は、上記のイからクにあてはまらない。
(ゴールデンスコアの勝敗は、すべて同等とする)
 - コ ケで同等の場合は、対象の選手によるゴールデンスコア方式の再試合を行う。対象が3名以上の場合は、抽選にて試合順を決定する。

【新人】

(1) 団体戦

- ① 男子44チーム、女子28チームの参加によるトーナメント方式で行う。
- ② 2チーム間における対抗方式は、男子は1チーム5人、女子は1チーム3人による紅白点取り試合方式で行う。
- ③ チーム編成は、男女とも体重の重い者を大将とし、以下順次体重順とする。交代の選手と入れ替えた場合においても同様に体重順とする。試合毎の選手位置の入れ替えおよび、一度退いた選手の再出場は認めない。※選手変更は基本的に、前試合開始までに所定の場所にて受け付ける。
- ④ トーナメント方式の順位は、次の方法によって決定する。
 - ア チーム間における勝ち数による。
 - イ アにおいて同等の場合は、内容により決定する。
 - ウ イにおいて同等の場合は、1名による代表戦により決定する。(任意)
- ⑤ 男女団体戦において、準決勝敗退校で第3シード決定戦を行い3位と4位の順位付けをする。
(ただし賞状の記載は、両校とも「第3位」とする)
※学総体時の組み合わせを、優勝校側に第4シード、準優勝側に第3シードとする。

(2) 個人戦

- ① 男子各階級30名、女子各階級22名までによるトーナメント方式で行う。

10 審判 審判員は、専門委員の任命を受け結成された審判団の構成員が担当するものとする。

11 大会運営 (1) 競技役員は埼玉県中学校体育連盟柔道専門部に加盟登録している中学校の顧問をもって構成する。
年度当初の専門委員会にて担当を決定し、その指示により、運営する。
(2) 会場の使用については、各会場の特性を考慮し、会場のある予選母体の長が要項を作成し、各大会の代表者会議において、各地区の常任委員ならびに各校の顧問に対して、周知徹底を図ることとする。また、各地区の常任委員ならびに各校の顧問は、大会前日までに、大会に参加する生徒ならびにコーチ、引率や応援の保護者などに、その内容を的確に伝え、遵守させること。
(3) 試合の時間的な運営については、各試合の出場定数や階級、試合場の数を考慮した上で、常任委員会において決定する。
(4) 試合場への入場は、あらかじめ登録された監督・役員・外部指導者・引率保護者・視察員および選手のみとし、選手以外についてはIDカードの着用を義務づけることとする。
(5) 地域スポーツ団体等(地域クラブ活動)は、予選会となる全ての大会において、競技役員や審判など運営上必要な事項に協力することとする。

12 表彰 (1) 団体戦

- ① 優勝校には、賞状・優勝杯・メダルを授与する。
優勝杯は持ち回りとし、翌年の大会で返却する。
- ② 準優勝校には、賞状とメダルを授与する。第3位校(2チーム)には、賞状を授与する。
※学校総合における3位校とは男子の場合関東大会出場校を指し、女子の場合は関東大会出場決定戦進出校とする。

(2) 個人戦

- ① 各階級第1位～第3位までの4名に賞状を授与する。

(賞状の記載は、男子は1位・2位・3位・3位 女子は1位・2位・3位・3位)

※学校総合の男子については、関東大会出場決定戦進出者を3位として扱う。

13 参加申込

(1) 申し込み方法

- ① 参加校及び参加選手は、専門委員会議で配布される所定の参加申込用紙(各地区委員長が地区予選後に配布)に必要な事項を記入の上、代表者会議の際に提出する。欠員が生じた場合は、地区番号のみを記入した参加申込書を提出すること。
- ② **団体戦は、出場チームの監督が申込書を代表者会議で提出する。**
- ③ **個人戦は、出場選手の監督・地域スポーツ団体等(地域クラブ活動)の指導者が申込書を代表者会議で提出することを原則とする。**

14 その他

(1) 選手変更について

- ① 大会申込書提出後は、選手の病気・負傷等であっても選手変更を認めない。
- ② 団体戦においては試合当日、登録選手の交替のみとし、体重順に編成替えをすること。
- (2) 大会期間中の負傷・疾病等については、応急手当のみ行う。
また、本大会は、独立行政法人日本スポーツ振興センター法の定めを適用する。参加者は健康保険証(コピー可)を持参することが望ましい。(健康保険証が無い場合は保健医療が受けられない場合もある)
- (3) 選手、IDカード所持者の他は、試合会場への入場を一切認めない。
※IDカードを配布する範囲(監督・コーチ・引率保護者・視察員)および(来賓・役員)
- (4) 組合せは、大会当日受付にてプログラムを通じての発表とする。なお組合せについての事務局への電話、ファックス等での問い合わせには一切応じない。専門部ホームページ上でも発表する。
- (5) その他、必要事項については、監督会議において連絡するので、何らかの都合で出席できない監督は、後で出席した監督から内容を確認しておくこと。
- (6) 本大会では、部旗・応援旗の掲示は、大会運営に支障がないもので、壁に傷等がつかないように固定ができるものとする。
- (7) 強化選手は、新人大会終了後に強化委員会により選考され、常任委員会で決定する。
- (8) 組み合わせ抽選は企画委員会において作成された抽選要項(別紙)に基づいて行う。
- (9) 生徒は、大会時の水分補給は水筒を使用する。ペットボトルからの水筒の補給は観覧席の自分の荷物の場所で行う。**

埼玉県中学校体育大会出場規定

- 第 1 条 本連盟の主催あるいは、共催する体育大会に出場する場合は、すべてこの規定によるものとする。
- 第 2 条 本連盟の主催あるいは、共催する体育大会に出場する場合は、次の事項を厳守しなくてはならない。これらの事項のいずれかが守られてない場合は出場を認められない。
- (1) 大会の申し込みは、所定の様式にしたがって記載し、参加費を添えて、学校長の責任において（校長印捺印）提出するものとする。
 - (2) 大会の申し込みは、定められた期日、時刻（代表者会議）までに、所定の宛先に提出する。
 - (3) 代表者会議への出席は、出場校の校長・教員・部活動指導員*1（以下、指導員）とする。
 - (4) 参加者は、各大会の要項に従い選手資格、チームの編成及び登録選手の変更等を厳守する。なお、一大会における同一競技の参加は、地区予選も含め、1度のみとする。
 - (5) 大会申し込みの後、参加校の事由により欠場する場合は、大会開始前に必ず大会本部（専門委員長）に連絡する。
 - (6) 大会当日、定められた時間内に校長・教員・指導員又は、校長が認めた保護者が受付を完了する。
 - (7) 大会へ出場する選手及び応援生徒の引率は校長・教員・指導員とする。
 - (8) 個人種目へ出場する生徒の引率は、校長が認めた保護者としてすることができる。
 - (9) 開会式（開始式）には、原則として大会参加者全員が参加するものとする。
 - (10) 合同チームによる大会参加規程により合同チームによる大会参加を認める。
 - (11) 特別支援学校中学部生徒、朝鮮初・中級学校の中学校生徒の大会参加は「盲・ろう・養護学校生徒の埼玉県中学校体育大会の参加について」並びに「朝鮮初・中級学校の埼玉県中学校体育大会の参加について」の覚書による。
- * 1) 部活動指導員とは、学校教育法施行規則第 78 条の 2 に示されている者であり、学校設置者により任用されている者をいう。
- 第 3 条 本連盟の主催あるいは、共催する体育大会とは、おおむね次のものである。
- (1) 学校総合体育大会
 - (2) 新人体育大会兼県民総合スポーツ大会
 - (3) 通信陸上競技県大会
- 第 4 条 本連盟の主催あるいは、共催する体育大会の運営は、各種目別専門部の規定により行うものとする。
- 第 5 条 本連盟の主催あるいは、共催する体育大会に出場する各校は、次の事項に留意する。
- (1) 会場内（試合場、応援見学席）における選手ならびに応援見学者の掌握
 - (2) 試合場における選手のマナー
 - (3) 会場内における応援見学者のマナー
 - (4) 会場内外の整備や施設利用のきまり
 - (5) 大会運営への協力
 - (6) その他、教育活動としての配慮
- 第 6 条 大会規定に無い不測の事態が生じた場合は、大会本部の協議によりこれを処理する。
- 付 則 本大会規定は昭和 52 年 2 月 22 日より施行する。
- | | |
|----------------------|----------------------|
| 昭和 59 年 4 月 18 日一部改正 | 平成 18 年 4 月 26 日一部改正 |
| 平成 9 年 4 月 25 日一部改正 | 平成 19 年 4 月 25 日一部改定 |
| 平成 10 年 4 月 24 日一部改正 | 平成 27 年 4 月 22 日一部改正 |
| 平成 14 年 4 月 24 日一部改正 | 平成 29 年 4 月 26 日一部改正 |
| 平成 15 年 4 月 25 日一部改正 | 平成 30 年 4 月 25 日一部改正 |
| 平成 16 年 4 月 23 日一部改定 | |

埼玉県中学校体育大会への地域スポーツ団体等(地域クラブ活動)の参加資格等の特例について

大会参加は学校単位が原則であるが、(公財)日本中学校体育連盟が参加資格を緩和したことを受け、埼玉県においても地域スポーツ団体等(地域クラブ活動)について、一定の条件を設定した上で特例としての参加を認める。以下特例及び各競技部細則により条件を示す。

1、埼玉県中学校体育大会の参加を認める条件

(1)【大会理念の遵守尊重】

埼玉県中学校体育連盟の目的及び永年にわたる活動を理解し、それを尊重すること。

(2)【年齢制限】

生徒の年齢及び修業年限が我が国の中学校と一致している(中学校に在籍している生徒であること)。

(3)【団体登録】

当該競技を管轄する中央競技団体もしくは県・市町村競技団体に登録されている県内地域クラブとする。

(4)【大会参加申請】

①埼玉県中学校体育連盟事務局へ大会参加申請を行い、認定されていること。

②地域スポーツ団体等(地域クラブ活動)から大会に参加する場合は、令和5年4月3日(月)～4月21日(金)までに、県中体連に対し、参加申請手続きを行うこと。(様式1・2)

③追加登録申請期間については、下記のとおりとする。

ア 新人体育大会兼県民総合スポーツ大会・駅伝競走大会【7月3日(月)～7月21日(金)】

イ 冬季競技(スキー・スケート・アイスホッケー)【10月2日(月)～10月20日(金)】

④申請後、認定された場合には、県中体連から認定通知を送付する。

⑤登録有効期間は、認定日から3月31日までとする。登録料・事務手数料として、3,000円を県中体連に納入する。

(5)【活動状況の要件】

『学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン』(令和4年12月スポーツ庁発出)の「Ⅱ 2 適切な運営や効率的・効果的な活動の推進、(5) 適切な休養日等の設定」を遵守していること。

(6)【大会運営への協力】

予選会となる全ての大会において、競技役員や審判など運営上必要な事項に協力すること。

(7)【重複参加の禁止】

地域スポーツ団体等(地域クラブ活動)で埼玉県中学校体育大会に参加する場合、在籍校での大会参加は認めない。その逆も同様である。

2、埼玉県中学校体育大会に参加した場合に守るべき条件

(1)【開催基準・申し合わせ事項の遵守】

埼玉県中学校体育大会開催基準を守り、出場する競技種目の大会申し合わせ事項等に従うとともに、大会の円滑な運営に協力すること。

(2)【事前会議の出席、選手引率の責任】

地域スポーツ団体等(地域クラブ活動)においては、責任ある代表者・指導者が代表者会議に必ず出席するとともに、大会当日生徒を引率すること。ただし、支部代表者の参加により行う競技の代表者会議については、その限りではない。また、万一の事故発生に備え、傷害保険等に加えるなどして、万全の事故対策を立てておくこと。

(3)【団体ごとのチーム数制限】

- ① 団体競技における地域スポーツ団体(地域クラブ活動)名での出場は1チームのみとする(複数のチームの参加はできない)。
- ② 地域スポーツ団体等(地域クラブ活動)の合同チームによる参加は認めない。

(4)【登録地域と予選への参加】

地域スポーツ団体等(地域クラブ活動)が出場を希望する場合は、申請用紙に競技団体に登録している市町村を記入する。支部大会がある場合には、登録市町村から出場する。

3、参加を認めない場合

- (1) 埼玉県中学校体育大会参加申込に際して、参加条件に虚偽がある場合は参加を認めない。また、申込後に虚偽が判明した場合は参加資格を取り消す。

※1 この特例は、令和5年4月1日より適用する。

※2 この特例に則り、競技専門部ごとに大会参加に関する細則を策定する。

※3 この特例および競技細則は、年度毎に更新していく。

埼玉県中学校体育連盟保護者引率細則

埼玉県中学校体育大会出場規定第2条(8)により中学校体育大会保護者引率について、次のように定める。

当該運動部が学校に設置されていない個人種目に生徒が希望し保護者から申し出があった場合、校長は次の処置を講ずることができる。

校長は、校長・教員が生徒を引率することにより学校運営等に支障があると判断した場合、「中学校体育大会保護者引率細則」に基づき申し出のあった保護者を引率者とすることができる。

1 保護者引率を認める個人種目

- | | | | |
|-----------|----------|-------------|------------|
| (1) 陸上競技 | (2) 体操競技 | (3) 新体操 | (4) 水泳競技 |
| (5) 卓球 | (6) 柔道 | (7) 剣道 | (8) バドミントン |
| (9) 相撲 | (10) テニス | (11) ソフトテニス | (12) スキー |
| (13) スケート | | | |

※団体戦に出場した学校の個人戦における保護者引率は基本的に認めない。

※陸上競技・水泳のリレーは個人種目として取り扱わない。

(剣道・バドミントンは、団体戦・個人戦の参加種目が別目であれば、保護者引率を認める)

- 2 生徒は各支部の予選を通過する等、県大会出場が決定していなければならない。
- 3 申し出ることのできる保護者とは、家庭調査表(書)等により学校に届け出のあった保護者とする。
- 4 個人種目に該当するソフトテニス等はダブルスであるから、1人の生徒に1名の引率者(保護者)が付き計2名となる。兄弟姉妹の場合はその保護者1名でよい。
- 5 大会に出場するための手続き(大会参加に必要な書類の記入及び提出・代表者会議への出席・生徒への指導等)は校長が行う。
- 6 保護者が引率する場合、大会申込書の「保護者氏名・自宅電話・保険の加入」欄に記入する。
- 7 引率上の留意点・大会会場における留意点等。
 - (1) 引率する上での留意点等
 - ア 引率時は、公の交通機関を利用する。
 - イ 引率上の責任はすべて保護者にあるので、生徒・保護者共に任意の傷害保険等に加入する。
加入についての手続きは保護者が行い、費用についても保護者が負担する。
 - ウ 生徒の服装持ち物等については、各学校のきまりに従う。
 - エ 大会の結果と帰校報告を当日に行う。
 - オ その他、引率に必要な留意点について校長又は教員が引率する保護者と面談の上指導する。
 - (2) 大会会場における留意点等
 - ア 大会要項に従い、決められた時刻に受付を済ませる。
 - イ 大会開始から終了するまで、会場からでることはできない。
 - ウ 打合せ会に出席し運営等について確認する。専門委員長の要請により、大会の運営に協力する。その際、旅費・旅費雑費等は支給されない。
 - エ 競技に関して抗議等はできない。
 - オ 引率者として相応しくないと大会本部が判断した場合、退場を命じ生徒は失格となる。
 - カ ゴミ等は必ず自宅に持ち帰る。
 - キ 荒天時等、保護者は会場に直接問い合わせることができない。
- 8 その他
 - (1) 埼玉県中学校体育連盟が主催及び共催する下記大会に適用する。
 - ア 学校総合体育大会
 - イ 新人体育大会兼県民総合スポーツ大会
 - ウ 通信陸上競技県大会
 - (2) 全国中学校体育大会の出場規定では、保護者の引率は認められていないので注意する。

付則 この細則は平成10年4月1日より施行する。

平成16年4月23日一部改正

平成25年4月23日一部改正

平成22年4月27日一部改正

平成28年4月27日一部改正

外部指導者の規程（改正案）

当該校長が、下記の条件を満たした者を外部指導者として申請した場合は、埼玉県中学校体育連盟が主催及び主管とする各大会での技術指導及び引率・監督を認める。

記

1 外部指導者の資格

外部指導者とは、当該校長が人格・指導面において優れていると認めた成人であり、学校の教育方針に基づき、顧問教師の指導計画に従い、日頃から継続して運動部活動指導にあたっている者である。

2 複数の学校及び種目の外部指導者としてベンチ入りはできない。

但し、例外として、水泳飛込、体操競技、新体操、スケートについては安全確保等の補助の役割があり、複数校の外部コーチを認める。

3 中学校の教職員は外部指導者として大会に登録することは出来ない。 小学校・高等学校についても同様とする。

4 手続き、引率上の留意点等

(1) 大会に参加する学校（チーム）において、教員や部活動指導員による引率ができない状況が発生した場合、校長が適切であると承認した外部指導者（コーチ）の引率・監督を認める。なお、引率・監督をする場合、大会運営にも協力すること。

外部指導者が引率・監督を務める場合は、所定の「外部指導者確認書（校長承認書）」に必要事項を記入し、代表者会議までに県中体連事務局へ提出する。

(2) ①引率時は、公の交通機関を利用する。

②外部指導者は任意の傷害保険等に加入する。加入手続きは外部指導者が行い、費用は原則として自己負担とする。

③引率に関わる外部指導者の費用は、原則として出場校の負担とする。

④大会要項を遵守し、責任ある行動をとる。

5 申請方法

(1) 申請は、各大会ごとの申込用紙「外部指導者」の欄に必要事項を記入する。

6 その他

(1) 外部指導者の身分保証は、当該校長が責任を負う。

(2) 規程違反や不適切な言動等があった場合は、不適格者として会長又は専門委員長より当該学校長に連絡し資格を取り消すことがある。

(3) この規程以外については、各大会要項及び専門部の規程により処置する。

(4) 4については、学校事情により、日常指導している校長・教員・部活動指導員が引率できず、校長がやむを得ないと判断した場合に限るもので、安易に外部指導者の引率・監督を認めるものではない。

付則 この規程は平成8年4月26日より施行する。

平成15年2月14日一部改定

平成19年4月25日一部改正

平成22年4月27日一部改正

平成29年4月26日一部改正

平成30年4月25日一部改正

令和2年4月28日一部改正

令和5年4月26日一部改正

監督の大会参加心得

- 1 県中体連柔道専門部大会要項及び申し合わせ事項を遵守し、大会の円滑な運営に協力する。
- 2 服装は審判員に準じた服装（ワイシャツにネクタイ着用）とする。
- 3 会場内ではIDカードを必ず身につける。
- 4 大会時は、必ず受付を済ませてから会場へ入り、選手等の応援席の指示・確認をする。
- 5 試合時は、指定された場所で指示・応援等を行う。その際、大会運営上の妨げとなる行為をしない。
- 6 大会運営上の問い合わせ等については、必ず監督が本部まで申し出る。
- 7 「試合場におけるコーチの振る舞い」を遵守する。

外部コーチの大会参加心得

- 1 県中体連柔道専門部大会要項及び申し合わせ事項を遵守し、大会の円滑な運営に協力する。
- 2 服装は審判員に準じた服装（ワイシャツにネクタイ着用）とする。
- 3 会場内ではIDカードを必ず身につける。
- 4 大会時は、必ず受付時間を守り、外部指導者打合せには必ず参加する。
- 5 試合時は、指定された場所で指示・応援等を行う。その際、大会運営上の妨げとなる行為をしない。
- 6 大会運営上の問い合わせ等については、必ず監督を通して本部まで申し出る。
- 7 外部コーチは、各学校において年度当初登録した者のみであり、他の者が大会において、外部コーチ活動を行うことはできない。
- 8 「試合場におけるコーチの振る舞い」を遵守する。

試合場におけるコーチの振る舞いについて

財団法人全日本柔道連盟

コーチの役割

1. コーチは、選手への様々な状況における指示、戦術的なアドバイス、怪我の対応など、選手とのコミュニケーションを取ることを目的とする。
2. コーチは、自身の選手が大会会場に入場してから退出するまでの間、選手の行動に責任を持たなければならない。

コーチの場所

1. 原則として各試合場の正面と反対側、あるいは試合場の横側に、コーチ1名のみ入ることが許され、用意された椅子に着席しなければならない。
2. 伝統的にコーチを認めていない大会（全日本選手権大会など）においては、主催者の判断による。

コーチの言動

1. 試合が止まっている間（「待て」から「始め」の間）のみ、選手に対して指示を与えることができる。試合続行中は、選手に対して指示を与えることが許されない。
2. 次の行為を禁止する。
 - (ア) 試合が続行している最中に指示を出すこと。また、試合中に立ち上がること。
 - (イ) 審判員の判定に対し、コメントや批判、或いは訂正を要求すること。
 - (ウ) 対戦相手、審判員、役員、一般客、および自分自身の選手を侮辱するよう行為
 - (エ) 広告看板や器具に触ったり、殴ったり、蹴ったりすること。
 - (オ) その他、柔道精神に反する行為
3. 原則として、コーチは審判員に準じた服装とし、IDカードを付けるものとする。

罰則

上記に違反した場合は、下記による処分を科すものとする。

1. 1回目は、審判員が合議の上、口頭による注意をする。
2. 1回目の注意で改善されない場合は、審判員が大会委員長または審判長に報告の上、大会委員長または審判長の責任のもとにその試合が終了するまで試合場フロアの外へ退去させる。但し、試合はその後も続行するものとする。
3. 次の試合からは、またコーチ席に座ることができるが、その後も改善が見られない場合は、その大会期間を通して試合場フロアへの入場を禁止する場合もある。

以上

選手・応援生徒及び一般応援者のマナーについて

大会運営を円滑に行うために、選手及び応援の生徒は次の事項を守り、一般応援者の方々もご協力ください。もし守れないときには選手の失格または試合を中断する場合があります。

1. 選手として

- ・試合順をよく確かめ、試合に遅れないようにする。
- ・負けた選手やチームのことを考え、試合場でのガッツポーズ等はしてはならない。
- ・次の試合までに時間があるときは、2階応援席で観戦をする。
- ・計量時の服装は、男子は下ばき、女子はTシャツと下ばきとする。

2. 応援生徒について

- ・決められた応援場所で応援をする。また一つの学校で応援場所を独占するようなことをしてはならない。
- ・試合の進行に支障をきたすので、1階の会場に入れるのは、来賓・役員・監督・選手・認められた外部コーチ・引率保護者のみとする。なお、付き添いの生徒でも練習時間以外は試合場には入れない。
- ・応援時のマナーを守って応援する。

3. 一般応援者について

- ・1階の試合場での応援や観戦は禁止します。必ず2階の応援席で観戦してください。守れない場合は試合を中断します。
- ・一般応援者の座席指定はありませんが、生徒用の座席割り振りに従って観戦してください。
- ・**カメラのフラッシュを使用して撮影することは、おやめください。**

4. その他

- ・ゴミは全て持ち帰ってください。
- ・盗難による被害があるので、貴重品や持ち物の管理をしっかりとってください。
- ・**生徒は、会場内では水筒を使用する。また、飲食はマナーを守り、ゴミは必ず持ち帰る。**

さいたま

さいたま市

正面ステージ 補助役員専用席

東部地区

東 A 54	南 A 63	西 A 81	北 A 63
東 B 54	南 B 69	西 B 81	北 B 69
東 C 54	南 C 75	西 C 81	北 C 75
東 D 54	南 D 79	西 D 81	北 D 79
東 E 54	南 E 72	西 E 55	北 E 72
東 F 44	南 F 50		北 F 50
東全 314	南全 408	西全 379	北全 408

会場内観覧席数	1509
---------	------

『県大会完全指定席制度の方法について』

- 予選母体に割り振られた座席を、出場校毎に割り振りをして下さい…(郡市専門委員長)
- 各学校は、割り振られた座席のみを使用して下さい…(各校顧問指導)
- 保護者等が観戦に来る場合は、自校の割り当て場所を使用させて下さい…(顧問からの事前指導)
- ※各座席には【方角…東西南北】【列…A～(F)】【番号…No.】が付けられています
- ※図中の太点線は方角の区切り、二重線は地区の区切りを表します
- ※当日になっての割り振りや、早いもの順等はしないで下さい
- ※団体戦出場の場合は、1団体出場で15席程度が割り振りの目安になっています(男女出場で30席位)
- ※個人戦の場合は、出場選手1名につき3～4席程度が目安になっています(4人出場で14、15席位)
- ※個人戦は出場校数がかさむので、出場選手数等を考慮して配分して下さい
- ※敗退等で早く退館(帰る)場合は、一声を掛け合って、空いた席を有効活用して下さい

座席割当て表	東部地区	東 A 31～54 B 31～54 C 31～54 D 31～54 E 31～54 F 32～54	319	席
		南 A 1～38 B 1～38 C 1～38 D 1～38 E 1～28 F 2～27		
	北部地区	南 A 39～73 B 39～76 C 39～79 D 39～81 E 29～81 F 29～69	289	席
		西 A 1～17 B 1～17 C 1～17 D 1～7 E 3～5		
	西部地区	西 A 18～74 B 18～74 C 18～74 D 8～74 E 8～74	287	席
南部地区	西北 A 75～81 B 75～81 C 75～81 D 75～81 E 77～79	318	席	
	北 A 1～53 B 1～53 C 1～53 D 1～60 E 1～60 F 13～59			
さいたま市	北 A 54～71 B 54～74 C 54～77 D 61～79 E 61～81 F 61～80	260	席	
	東 A 1～24 B 1～24 C 1～24 D 1～24 E 1～24 F 1～23			
補助役員席	東	第④試合場担当校 D・E・F25～27 第②試合場担当校 D・E・F28～30	各校	
		第③試合場担当校 A・B・C25～27 第①試合場担当校 A・B・C28～30	9席	

西部地区

南部地区

北部地区

代表者会議における抽選の要項

以下に、学校総合体育大会、新人体育大会の代表者会議（抽選・プログラム作成）の要項を定める。

1. 県大会への出場定数

出場数は以下のように定める。各地区からの出場定数の配分は別々に定める。

(1) 学校総合体育大会

男子 団体 44校+2校 計46校 個人 各階級 30名+2名 計32名

女子 団体 28校+2校 計30校 個人 各階級 22名+2名 計24名

※前年度の新人大会で2位までに入った予選母体の団体と個人の定数を+1とする。

(2) 新人体育大会

男子 団体 44校 個人 各階級 30名

女子 団体 28校 個人 各階級 22名

2. 申込書の提出

2大会の代表者会議とも、埼玉県中学校体育連盟の申し合わせに従い、行う。

(1) 申込の締切時間は、代表者会議の集合時間より30分後とする。特に連絡等なく、この時間に遅れた場合は、専門委員長の判断で申込を終了し、その大会への参加を認めない。

(2) 各予選母体の長は、各地区の出場校および出場選手が定数に満たない場合、速やかに幹事に報告する。また、記入されない申込書は受付に提出する。幹事は締切の時間までに定数の確認を行う。

(3) 申込書の様式は中学校体育連盟柔道専門部から配布された、試合区分によって色分けされた用紙とする。他の用紙での申し込みは原則として認めない。**令和5年度より、プログラム用団体戦オーダーの提出(期限:7月7日)は、QRコードを読み込み、必要事項を入力して提出する。**

(4) 申込書に記載できる外部指導者は、学校長より正式に依頼された方1名のみである。また、正式に依頼された方であっても、申込書に記載がされていない場合は、当日外部指導者としての資格を持たない。その他、県より出されている「外部指導者のコーチ規定」に従う。

(5) 個人戦における保護者引率は、申込書に正式に記入された場合にのみ認められる。団体戦の保護者引率は認められない。その他「埼玉県中学校体育大会保護者引率規定」に従う。

(6) 予選母体番号記入位置には県大会への予選母体番号を記入する。複数の予選母体が合わさって地区大会を行っている場合にはすべての番号を記入する。

(7) 部活動指導員については、埼玉県中学校体育連盟が定める大会実施要項に従う。

3. 抽選の方法及びシードについて

団体戦については出場校の顧問による抽選、個人戦は専門部の責任抽選とする。

(1) 学校総合体育大会

前年度新人体育大会において男子団体戦ベスト16に入った学校、女子団体戦および男女個人戦ベスト8をシードする。詳細は別々に定める。

(2) 新人スポーツ大会

学校総合体育大会において、ベスト8に入った学校が所属する予選母体の上位校をシードする。個人戦においては、学校総合体育大会の結果等を考慮しつつ、抽選を行う。詳細については別々に定める。

4. 抽選の手順

団体戦の抽選について

(1) 定数に満たない場合、トーナメント表の処置を行う。

①新人戦で男子出場校が44校に満たない場合の処置

トーナメント表の次の部分を順に削る。 22/44/33/11/8/30

②新人戦で女子出場校が28校に満たない場合の処置

トーナメント表の次の部分を順に削る。 12/26/19/5/7/21

③学校総合体育大会で男子出場校が46校に満たない場合の処置

トーナメント表の次の部分を順に削る。 40/17/23/46/34/11

④学校総合体育大会で女子出場校が30校に満たない場合の処置

トーナメント表の次の部分を順に削る。 24/9/13/28/20/5

(2) シード定数が満たなかった場合

前大会の上位入賞シード校のブロックにある枠のシードをはずす。

学校総合 (男子団体 4/27/38/15) (女子団体 2/17/24/9)

※ **上位シード欠員の場合は下位シードより抽選によりシード校を決定する。**

新人団体におけるシートが16に満たなかった場合は、出場回数が多い地区の2位校にシートを与える。

(3) 抽選 ※学校総合・新人どちらの場合も抽選は申込書を提出した順とする。

学校総合体育大会の場合

① シート校を確認し、トーナメント表に割り振る。

男子の場合

- ・前大会1位は (1)
- ・前大会2位は (2 4)
- ・前大会3位は (3 5) へ
- ・前大会4位は (1 2) へ
- ・前大会ベスト8は抽選により (6) (18) (29) (41) へ
- ・前大会ベスト16は抽選により (4) (9) (15) (21) (27) (32) (38) (44) へ

女子の場合

- ・前大会1位は (1)
- ・前大会2位は (1 6)
- ・前大会3位は (2 3) へ
- ・前大会4位は (8) へ
- ・前大会ベスト8は抽選により (4) (12) (19) (27) へ

② 男子前大会シート校以外の地区大会1位校は、次の枠に入れる。

(5)(10)(16)(22)(28)(33)(39)(45)

4ブロックに分けるよう配座する。(2校の場合は左右)

女子前大会シート校以外の地区大会1位校は、ベスト16シートとする。

(2)(6)(10)(14)(17)(21)(25)(29)

上記の扱い以上の該当校がある場合は、ベスト16シートと一回戦に当てるよう配座する。

③ 残りの学校はすべて申込書の提出順に抽選をする。

※その際、1回戦で同じ地区の学校と当たった場合のみ再抽選とするが、最後のくじでの同地区対戦は配慮しない。

新人兼県民スポーツ大会の場合

【各予選1位校の入る位置】

男子 1/4/6/9/12/15/17/20/23/26/28/31/
34/37/39/42

女子 1/2/4/6/8/9/11/13/15/16/18/20/22/
23/25/27

【各予選2位校の入る位置】

男子 2/5/7/10/13/16/18/21/24/27/29/32/
35/38/40/43

【ベスト8の定義】

- ・決勝戦に勝ち進んだ2チーム
- ・敗者復活戦で男子は勝ち上がった2チーム、女子は代表決定戦に進んだ2チーム
- ・準々決勝で敗退し、敗者復活戦には出場しなかった2チーム
- ・敗者復活戦1回戦に勝利した2チーム

【入る位置】男子 1/6/12/17/23/28/34/39

女子 1/4/8/11/15/18/22/25

① 学校総合で優勝した学校の地区を1位通過した学校は、1の枠に入れる。

② 学校総合で準優勝した学校の地区は、上記の①の逆ブロックを抽選する。

③ 学校総合でベスト8に複数入った地区が多い順から抽選する。その際、左右・4ブロックに分けるよう配慮する。(地区1・2校は、左右に分ける。地区3位校以降は、4ブロックに分ける)

※もしベスト8に同じ地区から5校以上入賞した場合は企画委員会で検討する。

④ ①～③に該当しなかった地区の1位校を抽選で入れる。

⑤ ④に該当しなかった地区の2位校を抽選で入れる。

1位校と反対ブロックを抽選するよう配慮する。

⑥ 3位以降の枠こさいたま市の学校を抽選する。※A・B・C・Dに別れる配慮をする。

⑦ 3位校を抽選で入れる。※A・B・C・Dに別れる配慮をする。

⑧ 最後に5位校を抽選で入れる。

※その際、1回戦で同じ地区の学校と当たった場合のみ再抽選とするが、最後のくじでの同地区対戦は配慮しない。

(4) 抽選結果はコンピューターに入力してトーナメント表を作成する。

個人戦の抽選について

個人戦の組合せ抽選は、専門委員・幹事による責任抽選にて行う。

尚、抽選においては監督が立ち会うことを制限しない。

(1) 定数に満たない場合の処置

学校総合体育大会

①男子出場人数が32人に満たない場合の処置

トーナメント表の次の部分を順に削る。

2/18/26/10/14/30/22/6

②女子出場人数が24人に満たない場合の処置

トーナメント表の次の部分を順に削る。

6/18/24/12/9/21/15/3

新人体育大会

①男子出場人数が30人に満たない場合の処置

トーナメント表の次の部分を順に削る。

24/9/13/28/20/5/7/22/30/15

②女子出場人数が22人に満たない場合の処置

トーナメント表の次の部分を順に削る。

22/11/8/19/14/3/2/13/18/7

(2) 常任委員・幹事により、責任抽選を行う。

※配慮事項

- ・同一校の選手が1回戦で当たるようになってしまった場合、あとにくじをひいた選手の再抽選を行う。
- ・最後に提出された学校で同様の状態が起きても欠番がない限りは配慮しない。

(3) 抽選結果はコンピューターに入力し、トーナメント表を作成する。

(作成されたトーナメント表は当日配布しない。)

(上記抽選方法は平成12年4月の専門委員会で提案された内容に基づき作成いたしました。)

(訂正 平成14年度の定数改正、抽選方法の改正に伴い、文章の適正化を行いました。)

(訂正 平成15年度の全国関東予選会廃止に伴い、文章の適正化を行いました。)

(訂正 平成16年度の県民総合体育大会の廃止に伴い、文章の適正化を行いました。)

(訂正 平成17年4月の専門委員会で提案された内容により、文章の適正化を行いました。)

(訂正 平成19年4月の専門委員会で提案された内容により、文書の適正化を行いました。)

(訂正 平成22年4月の専門委員会で提案された内容により、文書の適正化を行いました。)

(訂正 平成28年4月の専門委員会で提案された内容により、文書の適正化を行いました。)

(訂正 平成30年度の定数改正に伴い、文章の適正化を行いました。)

(訂正 平成30年度1月の常任委員会で提案された内容により、文書の適正化を行いました。)

(訂正 令和元年度1月の常任委員会で提案された内容により、文書の適正化を行いました。)

(訂正 令和3年度4月の専門委員会で提案された内容により、文書の適正化を行いました。)

(訂正 令和4年度4月の専門委員会で提案された内容により、文書の適正化を行いました。)

(訂正 令和5年度4月の専門委員会で提案された内容により、文書の適正化を行いました。)

組み合わせ抽選会の流れと役割分担

団体戦県大会出場校へ

QRコードを読み、必要事項を入力して送信してください。

東西南北各責任者様へ

集約後、東西南北の大会予選結果を川越城南中学校 清田まで送ってください。

1. 抽選会の手順と仕事内容

① 申込書、オーダー表の記入と提出

受付定数確認

幹事長より指名された幹事で行う。

※団体は1位校、2位校、3位校、5位校に分けて集める。

※予選NO及び順位の記入を確認してから受理する。

団体戦オーダー表管理 清田

※団体戦監督にオーダー表記入を呼び掛け、回収する。

② 14:00までに、提出数の確認をし、委員長に報告する。

※必ず欠番の確認をする。

③ 団体戦の抽選

呼び出し係（シード校の確認と抽選の呼び出しをする）

清田・北田

抽選係（抽選用鉛筆を担当する）

青木・新井

記録係（抽選の結果を用紙に記入する）

岡野

掲示係（抽選の結果を大掲示に記入する）

小林

コンピューター入力（記録用紙の内容を入力する）

久保・黒柳

④ 個人戦の抽選

各階級2名から3名で行う。

団体戦抽選を行っている間に申込書の記載が整合しているか確認する。

※必ず手書きのトーナメントを作成し、コンピューター入力したものと照合する。

2. 事前に準備するもの

- ・ 申込用紙の印刷 (清田)
- ・ 集約データ入力 (東西南北各責任者) → 事前に(清田)に提出。

3. 当日に準備するもの

- ・ 代表者会次第 (北田)
- ・ 大会要項 (北田)
- ・ 県大会派遣文書 (久保)
- ・ 抽選用鉛筆、マジック (清田、黒柳)
- ・ パソコン3台 (久保、黒柳、北田)
- ・ トーナメント表大掲示 (清田)
- ・ トーナメント表記録用 (清田)

4. お願い

(1) 申込用紙記入について

- ・ 地区番号、予選順位を必ず入れてください。
- ・ 明らかに生徒が書いたと見られる申込用紙があります。よろしくお願ひします。
- ・ 保護者引率、外部指導者の入力について十分ご留意ください。

(2) 各地区委員長様

- ・ 予選が終わりましたら速やかに東西南北代表に結果を送ってください。
- ・ 提出ファイルの生徒氏名、学年の入力間違いがあり、その後の作業に大きく影響します。
各地区で必ず確認後、提出してください。
- ・ 提出ファイルデータでの生徒氏名の間は開けないでください。
- ・ 各地区専門委員長は、個人戦抽選後に全体確認をしますので、お残りください。

地 区	No.	予 選 母 体	男子団体		男子個人		女子団体		女子個人						
			地区定数	郡市定数	地区定数	郡市定数	地区定数	郡市定数	地区定数	郡市定数					
さいたま	1	さいたま	8	8	4	4	4	4	4	4					
南部	北足立南	2	川口	9	5	6	3	5	3	4	2				
		3	草加 蕨 戸田		1		1		1		1				
		4	朝霞 志木 和光 新座		3		2		1		1				
	北足立北	5	上尾	2	2	2	1	1	1	1	1				
			北本 桶川 鴻巣 北足立郡		2		2		1		1				
西部	入間	6	川越	6	1	4	3	2	2	2	1				
		7	東部(富士見. ふじみ野. 三芳)		2							2	1	1	
		8	北部(坂戸. 鶴ヶ島. 越生. 毛呂山)		2							2	1	1	
		9	西部(飯能. 日高)		3							2	2	2	1
			入間												
			所沢												
		狭山													
比企	10	東松山 比企郡	1	1	1	1	1	1	1	1					
北部	秩父	11	秩父 秩父郡	3	3	2	2	1	1	1	1				
	児玉	12	本庄 児玉郡	2	2	2	2	2	2	1	1				
	大里	13	熊谷 深谷 大里郡	5	5	3	3	4	4	4	4				
東部	北 埼	14	行田 羽生 加須	2	2	2	2	2	2	1	1				
	埼 葛	15	越谷 八潮	6	4	4	5	3	3	2	2				
			春日部												
		16	久喜 蓮田 白岡 南埼玉郡									2	2	2	2
三郷 吉川 幸手 北葛飾郡															
合 計			44	44	30	30	28	28	22	22					

学総46

学総32

学総30

学総24

団体戦タイムテーブル【学総】

大会1日目

時間	第一試合場	第二試合場	第三試合場	第四試合場
8:40	◎役員打ち合わせ 8:30~8:40			
	◎開場 8:40			
9:00	◎検量および柔道衣検査 8:45~9:15		◎会場設営 8:40~9:40	
9:20	◎審判会議 9:25~9:40			
9:40	◎監督会議 9:40~9:55		◎外部指導者打合せ 9:40~9:55	
10:00	男子Aブロック	男子Bブロック	男子Cブロック	男子Dブロック
10:20				
10:40	①1~3	②1~3	③1~3	④1~3
11:00	女子Aブロック	女子Bブロック	女子Cブロック	女子Dブロック
11:20	①4~6	②4~6	③4~6	④4~6
11:40	男子Aブロック	男子Bブロック	男子Cブロック	男子Dブロック
12:00				
12:20	①7~10	②7~10	③7~10	④7~10
12:40	女子Aブロック	女子Bブロック	女子Cブロック	女子Dブロック
13:00	①11・12	②11・12	③11・12	④11・12
13:20	男子Aブロック	男子Bブロック	男子Cブロック	男子Dブロック
13:40	①13・14	②13・14	③13・14	④13・14
14:00	女子Aブロック準々決勝	女子Bブロック準々決勝	女子Cブロック準々決勝	女子Dブロック準々決勝
	男子Aブロック準々決勝	男子Bブロック準々決勝	男子Cブロック準々決勝	男子Dブロック準々決勝
14:20	男子準決勝	女子準決勝	男子準決勝	女子準決勝
14:40	男子敗者復活戦	女子敗者復活戦	男子敗者復活戦	女子敗者復活戦
15:00	女子3位決定戦	男子代表決定戦	男子代表決定戦	女子3位決定戦
15:20		男子3位決定戦	女子代表決定戦	
15:40				
16:00		男子決勝戦	女子決勝戦	
16:20				
16:40	表 彰 式			
17:00				

個人戦タイムテーブル【学総】

大会2日目

時間	第一試合場	第二試合場	第三試合場	第四試合場
10:40	◎役員打ち合わせ 10:00~10:10			
	◎開場 10:10			
10:20	◎検量および柔道衣検査 10:15~10:45		◎会場設営 8:30~10:00	
10:40				
11:00	◎審判会議 10:55~11:10			
11:20	◎監督会議 11:10~11:25		◎外部指導者・引率保護者打合せ 11:10~11:25	
11:40	開 始 式			
12:00	女子48kg級 1回戦	女子52kg級 1回戦	女子40kg級 1回戦	女子44kg級 1回戦
12:20	女子70kg級 1回戦	女子70kg超級 1回戦	女子57kg級 1回戦	女子63kg級 1回戦
12:40	女子48kg級 2回戦	女子52kg級 2回戦	女子40kg級 2回戦	女子44kg級 2回戦
13:00	女子70kg級 2回戦	女子70kg超級 2回戦	女子57kg級 2回戦	女子63kg級 2回戦
13:20	女子48kg級3回戦	女子52kg級3回戦	女子40kg級3回戦	女子44kg級3回戦
13:40	女子70kg級3回戦	女子70kg超級3回戦	女子57kg級3回戦	女子63kg級3回戦
14:00		女子決勝リーグ (A対B)	女子決勝リーグ (C対D)	
14:20				
14:40		女子決勝リーグ (A対D)	女子決勝リーグ (B対C)	
15:00				
15:20		女子決勝リーグ (A対C)	女子決勝リーグ (B対D)	
15:40				
16:00				
16:20	表 彰 式			

個人戦タイムテーブル【学総】

大会3日目

時間	第一試合場	第二試合場	第三試合場	第四試合場
8:40	◎役員打ち合わせ 8:30~8:40			
9:00	◎開場 8:40			
9:20	◎検量および柔道衣検査 8:45~9:15			
9:40	◎審判会議 9:20~9:35		◎外部指導者打ち合わせ 9:35~9:50	
9:40	◎監督会議 9:35~9:50			
10:00	開 始 式			
10:20	男子50kg級 1回戦	男子55kg級 1回戦	男子60kg級 1回戦	男子66kg級 1回戦
10:40				
11:00				
11:20	男子73kg級 1回戦	男子81kg級 1回戦	男子90kg級 1回戦	男子90kg超級 1回戦
11:40				
12:00				
12:20	男子50kg級 2回戦	男子55kg級 2回戦	男子60kg級 2回戦	男子66kg級 2回戦
12:40	男子73kg級 2回戦	男子81kg級 2回戦	男子90kg級 2回戦	男子90kg超級 2回戦
13:00				
13:20	男子50kg級準々決勝	男子55kg級準々決勝	男子60kg級準々決勝	男子66kg級準々決勝
13:40	男子73kg級準々決勝	男子81kg級準々決勝	男子90kg級準々決勝	男子90kg超級準々決勝
14:00	男子50kg級 準決勝	男子50kg級敗者復活戦	男子60kg級 準決勝	男子60kg級敗者復活戦
14:00	男子55kg級 準決勝	男子55kg級敗者復活戦	男子66kg級 準決勝	男子66kg級敗者復活戦
14:00	男子73kg級 準決勝	男子73kg級敗者復活戦	男子90kg級 準決勝	男子90kg級敗者復活戦
14:20	男子81kg級 準決勝	男子81kg級敗者復活戦	男子90kg超級 準決勝	男子90kg超級敗者復活戦
14:40		男子50kg級3位決定戦	男子60kg級3位決定戦	
14:40		男子55kg級3位決定戦	男子66kg級3位決定戦	
14:40		男子73kg級3位決定戦	男子90kg級3位決定戦	
15:00		男子81kg級3位決定戦	男子90kg超級3位決定戦	
15:20		男子決勝戦	男子代表決定戦	
15:40	表 彰 式			
16:00				

個人戦タイムテーブル【新人】

大会1日目

時間	第一試合場	第二試合場	第三試合場	第四試合場
8:10	◎役員打ち合わせ 8:00~8:10			
	◎開場 8:10			
8:30	◎会場設営 8:15~9:45			
8:50	◎検査および柔道衣検査 8:40~9:30			
9:10	◎審判会議 9:15~9:30			
9:30	◎監督会議 9:30~9:45			
9:50	◎外部指導者・引率保護者打合せ 9:30~9:45			
9:50	開 会 式			
10:10				
10:30	男子50kg級 1回戦	男子55kg級 1回戦	男子60kg級 1回戦	男子66kg級 1回戦
10:50				
11:10	男子73kg級 1回戦	男子81kg級 1回戦	男子90kg級 1回戦	男子90kg超級 1回戦
11:30				
11:50	女子48kg級 1回戦	女子52kg級 1回戦	女子40kg級 1回戦	女子44kg級 1回戦
12:10	女子70kg級 1回戦	女子70kg超級 1回戦	女子57kg級 1回戦	女子63kg級 1回戦
12:30	男子50kg級 2回戦	男子55kg級 2回戦	男子60kg級 2回戦	男子66kg級 2回戦
12:50				
13:10	男子73kg級 2回戦	男子81kg級 2回戦	男子90kg級 2回戦	男子90kg超級 2回戦
13:30	女子48kg級 2回戦	女子52kg級 2回戦	女子40kg級 2回戦	女子44kg級 2回戦
13:50	女子70kg級 2回戦	女子70kg超級 2回戦	女子57kg級 2回戦	女子63kg級 2回戦
14:10	男子50kg級準々決勝	男子55kg級準々決勝	男子60kg級準々決勝	男子66kg級準々決勝
14:30	男子73kg級準々決勝	男子81kg級準々決勝	男子90kg級準々決勝	男子90kg超級準々決勝
14:50	女子48kg級準々決勝	女子52kg級準々決勝	女子40kg級準々決勝	女子44kg級準々決勝
15:10	女子70kg級準々決勝	女子70kg超級準々決勝	女子57kg級準々決勝	女子63kg級準々決勝
15:30	男子50kg級 準決勝	男子55kg級 準決勝	男子60kg級 準決勝	男子66kg級 準決勝
	男子73kg級 準決勝	男子81kg級 準決勝	男子90kg級 準決勝	男子90kg超級 準決勝
15:50	女子48kg級 準決勝	女子52kg級 準決勝	女子40kg級 準決勝	女子44kg級 準決勝
	女子70kg級 準決勝	女子70kg超級 準決勝	女子57kg級 準決勝	女子63kg級 準決勝
16:10	男子決勝戦		女子決勝戦	
16:30				
16:50	表 彰 式			

団体戦タイムテーブル【新人】

大会2日目

時間	第一試合場	第二試合場	第三試合場	第四試合場
8:40	◎役員打ち合わせ 8:30~8:40			
	◎開場 8:40			
9:00	◎検量および柔道衣検査 8:45~9:40			
9:20	◎審判会議 9:25~9:40			
9:40	◎監督会議 9:40~9:55		◎外部指導者打合せ 9:40~9:55	
10:00	男子Aブロック	男子Bブロック	男子Cブロック	男子Dブロック
10:20	①1~3	②1~3	③1~3	④1~3
10:40	男子Aブロック	男子Bブロック	男子Cブロック	男子Dブロック
11:00	①4~6	②4~6	③4~6	④4~6
11:20	女子Aブロック	女子Bブロック	女子Cブロック	女子Dブロック
11:40	①7~10	②7~10	③7~10	④7~10
12:00	女子Aブロック	女子Bブロック	女子Cブロック	女子Dブロック
12:20	①11・12	②11・12	③11・12	④11・12
12:40	男子Aブロック	男子Bブロック	男子Cブロック	男子Dブロック
13:00	①13・14	②13・14	③13・14	④13・14
13:20	女子Aブロック準々決勝	女子Bブロック準々決勝	女子Cブロック準々決勝	女子Dブロック準々決勝
13:40	男子Aブロック準々決勝	男子Bブロック準々決勝	男子Cブロック準々決勝	男子Dブロック準々決勝
14:00	女子準決勝	男子準決勝	男子準決勝	女子準決勝
14:20		男子シード決定戦	女子シード決定戦	
14:40		男子決勝戦	女子決勝戦	
15:00	閉 会 式			
15:20				
15:40				
16:00				
16:20				

国内における「少年大会特別規程」

国内における少年（中学生以下）の試合は、国際柔道連盟試合審判規程に則って行われるが、安全面を考慮し、次の条項を加えて行なうものとする。

第17条（抑え込み）

附則として次を加える

寝技の攻撃・防御において、脊椎及び脊髄に損傷を及ぼす動作と判断したときは「待て」とする。

第18条 禁止事項と罰則

指導（軽微な違反）

1. 立ち姿勢で相手の後ろ襟、背部又は帯を握ること。
ただし、技を施すため、瞬時的（1, 2秒程度）に握ることを認める。
（注）中学生は、試合者の程度に応じて、後ろ襟を握ることを認める。
2. 両膝を最初から同時に畳について背負投等を施すこと。
3. 関節技及び絞技を用いること。
4. 無理な巻き込み技を施すこと。
5. 相手の頸を抱えて大外刈、払腰などを施すこと。
6. 小学生以下が、裏投を施すこと。

反則負け（重大な違反）

1. 攻撃・防御において、故意に相手の関節を極めること。
2. 「逆背負投」（通称）の様な技を施すこと。
3. 両袖を持って投げ技を施すこと。

（附則）

指導（軽微な違反）

1. 「相手の後ろ襟、背部又は帯を握ること」関係
 - ①「後ろ襟」とは、柔道衣を正しく着用したときの頸の後ろ側（うなじあたり）の範囲をいう。試合者の一方が後ろ襟を握った後、その襟を引き下げて側頸部にずらした場合でも「後ろ襟」とみなす。
 - ②「背部を握る」の範囲は、目安として肩の中心線に手首がかかるような状態をいう。背部を握った後、柔道衣をたぐりよせて釣り手の一部の指が後ろ襟の内側を握る状態になっても背部とみなす。特例として「後ろ襟、又は背部を握った」状態で、通称ケンケン内股等（内股に限らずケンケンとなる大内刈や大外刈等）をかけることは、〔瞬時的（1, 2秒程度）〕の事項を適用せず、また、その後、連絡した技や変化した技についても、技の効果が途切れるまで継続を認める。
2. 「両膝を最初から同時に畳について背負投等を施すこと。」関係
両膝を最初から畳につくとは、膝の外側部、内側部も含む。同時はもちろん、ほとんど同時と見なされる場合も含む。技が崩れた結果である場合は反則としない。
3. 「関節技及び絞技を用いること。」関係
 - ①寝技の攻撃・防御において、脚を交差して相手を制しているだけの状態は、三角絞とはみなさない。抑え込もうと脚を交差して相手を制止した後、絞まっている状態あるいは脊椎及び脊髄に損傷を及ぼす動作と判断した場合は、受傷を防ぐために、早めに「待て」とする。また、通称「三角固」の体勢となった時点で、危険な状態ではないと判断しても、交差している脚を直ちに解かなければ「待て」とする。交差していた脚を直ちに解けば、寝技の攻撃・防御は継続となる。

②故意ではなかったが、絞技および関節が極まった場合は、「待て」とする。

4. [無理な巻き込み技を施すこと。] 関係

「無理な巻き込み」とは、軸足のバネを利かすことなく、体を利用して倒れ込むようにして巻き込んだ技をいう。

5. [相手の頸を抱えて施す大外刈、払腰などを施すこと。] 関係

「相手の頸を抱えて施す大外刈、払腰等」とは、明らかに腕を相手の頸に巻きつけて施した場合のみをいう。

反則負け（重大な違反）

2. [「逆背負投」（通称）の様な技を施すこと。] 関係

例えば一方の試合者が右組み、他方の試合者が左組みの体勢から、右組みの試合者が、正しく組んだ釣り手側の前襟を両手で握りながら、右足前回り捌き又は、左足後回り捌きで技を施し、相手を左方向に一回転させながら捻りを加えて、背中、又は頭から投げ落とす様な技をいう。但し、背負投を施して、相手が技を防御するために反対の肩越しに落ちた場合は含まない。

3. [両袖を持って投げ技を施すこと。] 関係

相手の両袖を左右それぞれの手で持ったまま袖釣込腰、大外刈、外巻込等の技を施した場合をいう。

但し、相手の片袖を持って、相手に自身の片袖を持たせたまま内股等の技を施した場合は含まない。

改廃

本規程の改廃は、審判委員会において協議し、理事会の承認を得て行う。

付則 この申し合わせは、平成22年5月1日から実施する。

この申し合わせは、平成23年6月14日から部分変更して施行する。

この申し合わせは、平成27年3月31日から改正し、平成27年6月1日から施行する。

この申し合わせは、平成27年11月30日から申し合わせを特別規定として改正し、施行する。

この特別規定は、平成30年3月1日から改正し、平成30年4月1日から施行する。

この特別規定は、令和3年3月15日から特別規程と改正し、施行する。

この特別規程は、2022年1月24日から改正し、2022年4月1日から施行する。

都道府県柔道連盟（協会）
会長 殿

公益財団法人全日本柔道連盟
審判委員会委員長 大迫 明伸
〔 公 印 省 略 〕

少年大会における「両袖を持って施す投げ技」の取り扱い並びに
国内における「少年大会特別規定」への反映について

最近、少年の大会等におきまして、「両袖を持って施す投げ技」によって、投げられた選手が顔面及び頭頂部から落下し、頸椎損傷あるいは脳振盪等を起こすケースが報告されています。少年柔道の基盤は「基本の習得」と「安全管理」であることは明白です。そこで、全柔連審判委員会では、現行の「少年大会特別規定」の改定の必要性を認識し、改定作業に着手しております。

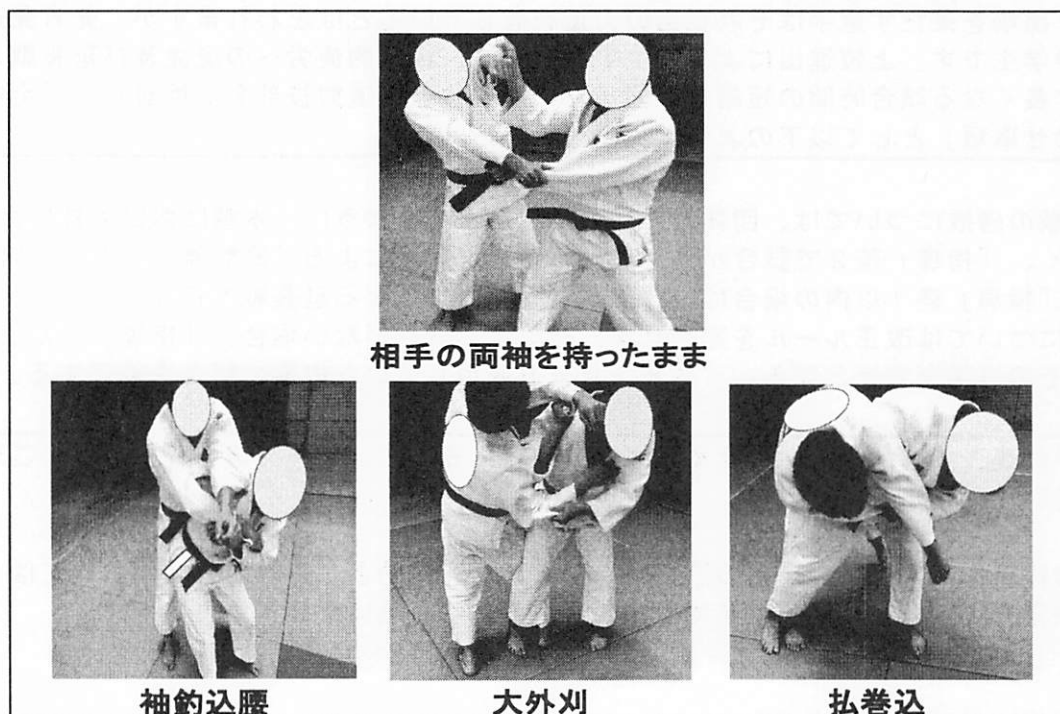
今回の改訂検討の結論として、特に発育発達段階の視点から、全柔連主催の少年の大会（中学生以下）においては、「両袖を持って施す投げ技」を禁止とし、施した場合には「反則負け」とすることにしました。

そこで、関係各団体におかれましては、以上の趣旨をご理解戴き、各団体関係者及び選手への啓発・ご周知をお願い申し上げます。

注) 「両袖を持って施す投げ技」とは、近年国内外の大会等で頻繁に使用されるようになった技術であり、相四つ、喧嘩四つの組み手において、相手の両袖を左右それぞれの手で持ちながら、袖釣込腰、大外刈、払巻込などを施技することを指します。

相手の両袖を持って施技することにより、投げられた試合者にとって、腕による受身がとりにくい体勢で、顔面及び頭頂部から畳に落下する恐れがあり、危険性を伴います。

国内の少年大会等において、重篤な事故につながったという報告は届いておりませんが、施技に伴う受傷が危惧されています。



平成30年4月6日

(公財)日本中学校体育連盟
柔道競技部 各ブロック長様
都道府県中学校体育連盟
柔道競技部委員長(部長)様
関係者各位

(公財)日本中学校体育連盟柔道競技部
競技部長 高橋健司

第49回全国中学校柔道大会の審判規定ならびに個人戦の勝敗決定方法について(周知)

新学期を迎え、校務多忙の毎日が続きますが、平素より中学校柔道の普及発展にご尽力いただき、まことにありがとうございます。

(公財)日本中学校体育連盟(以下日本中体連)傘下の各大会においては、昨年4月1日より導入された国際柔道連試合審判規定(以下IJF規定)2017~2020改正ルール及び国内における「少年大会特別規定」(以下「少年規定」)を適用して大会を運営されてきたことと存じます。

平成30年4月1日より(公財)全日本柔道連盟(以下全柔連)が主催する大会においては、新たに発出されたIJF規定改正ルール及び少年規定を適用することとなりました。標記大会は中体連と全柔連による共催のため、平成30年4月1日施行の規定を本年度の第49回大会より適用します。各団体に周知のほどお願い申し上げます。規定の詳細は「両袖を持って施す投げ技の禁止」と併せて、全柔連HPをご参照ください。

中学生の試合については、体力面や健康面において最大の配慮をもって大会を運営する旨を中体連本部より指導されています。今回のIJF改正ルールでは「技あり、合わせて一本」が復活し、選手の疲労や大会終了時間の超過、競技補助役員(生徒)の負担など、昨年来危惧された事案が緩和されると予想されます。アスリートとして全国中学校柔道大会(以下全中大会)出場を果たす選手はそれ相当の力量を有しているとは思われますが、発育発達段階である中学生です。上位進出によって生ずる体力的、精神的疲労への配慮及び延長戦ルールによって長くなる試合時間の短縮化を図るために中体連柔道競技部会で検討し、「全中大会申し合わせ事項」として以下のように決定しました。

個人戦の勝敗については、団体戦の個々の試合と同じように、本戦において技による得点差がなく、「指導」差2で試合が終了した場合は、僅差による「優勢勝ち」として勝敗を決する。「指導」差1以内の場合は、時間無制限、GSによる延長戦を行う。

GSについては改正ルールを適用せず、技による得点がない場合、「指導」差が上回った時点でその選手が負けとなる。(本年3月まで適用していた内容で試合を終了する。)

日本中体連、共催団体である全柔連には昨年度に要望し、各種会議を経てすでにご理解、ご承認をいただきました。

上記の経緯により、大会運営の適正化を図ることを目的として標記大会においては、上記の勝敗決定方法としますので併せて周知の程よろしくお願い致します。

以上

関係各位

公益財団法人全日本柔道連盟
審判委員会委員長 大迫 明伸
(公印省略)

新たに適用される罰則（指導・反則負け）の施行について

国際柔道連盟では、本年 1 月 11～12 日カタール・ドーハで開催されたレフリーセミナーにおいて、新たに適用される罰則として、「攻防に関係の無い行為で、相手の柔道衣を乱す行為」に対して「指導」を付与すること並びに「故意に相手の足を踏みつけて技を仕掛ける及び故意に相手の頭髪を掴んで技を仕掛ける行為」に対しては、柔道精神に反する行為として「反則負け」を付与することを決定いたしました。

本年に開催される 2020 年東京オリンピック柔道競技でもこの罰則が適用される為、日本国内でも早急に適用する必要があります。

別紙の全柔連主催大会では 4 月よりこの罰則を導入しますが、各主催団体におきましては、施行期間に猶予を設ける等の措置を講じながら、導入を検討して頂きますよう、お願いいたします。

記

1 新たに適用される罰則「指導」の内容

従来は、「攻防に関係の無い行為で、自らの柔道衣（裾部分）を帯から出す行為（図 1-1,1-2）」を対象としていたが、今後は、「攻防に関係の無い行為で、意図的に相手の柔道衣（裾部分）を帯から出す行為（図 2-1,2-2,2-3）」も対象となり、「指導」が付与される。通常の攻防の中で、偶発的に相手の服装を乱すことは対象とならない。

なお、図 3 の行為については、国際柔道連盟が本年 2 月のグランドスラム・デュッセルドルフにおいて、追加承認したものとなる。

図 1-1

図 1-2

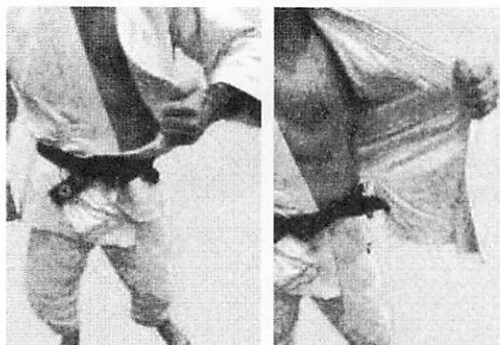


図 2-1

図 2-2

図 2-3



図（2-1,2-2,2-3）の様子、青が組み合っていない状態から、白の整えられた柔道衣から意図的に裾部分を引き出した場合に対象となる。

図3-1

図3-2

図3-3



図(3-1,3-2,3-3)の様、青が組んだ状態から、白の整えられた柔道衣から意図的に裾部分を引き出した場合に対象となる。

2 新たに適用される罰則「反則負け」の内容

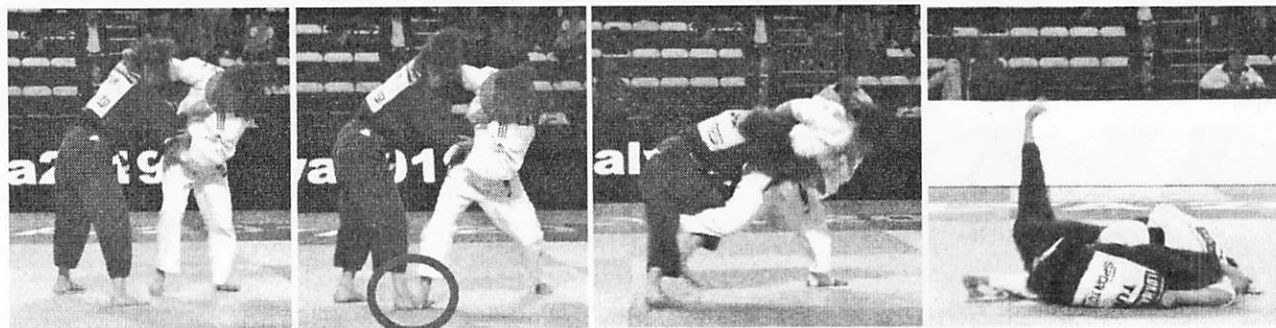
「故意に相手の足を踏みつけて技を仕掛ける及び故意に相手の頭髪を掴んで技を仕掛ける行為」は、柔道精神に反する行為として「反則負け」が付与される。但し、1回目は偶発的に起きうる可能性もあるので「待て」として、ノースコア、ノーペナルティで試合を継続する。2回目が起これば、故意であると判断し「反則負け」を付与する。

図4-1

図4-2

図4-3

図4-4



図(4-1,4-2,4-3,4-4)の様、白が故意に青の足を踏みつけてから、技を仕掛けた場合に対象となる。

【問い合わせ先】

公益財団法人全日本柔道連盟

大会事業課

電話 03-3818-4392

メール shinpan@judo.or.jp

以上

全柔連発第 21-1013 号
2022 年 1 月 24 日

都道府県柔道連盟（協会）
会長 殿

公益財団法人全日本柔道連盟
審判委員会委員長 大迫 明伸
(公印省略)

中学生の試合における絞技の取り扱い並びに
国内における「少年大会特別規程」への反映について

拝啓 厳寒の候、時下ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は本連盟の諸事業に対し格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、近年、中学生大会等におきまして、絞技により絞められた選手が絞め落ちし痙攣するケース、あるいは蘇生中に頸椎損傷を起こすケースが報告されており、絞め落ちした選手の精神的・肉体的なダメージが大変懸念されるところであります。

そこで、本連盟では大会事業委員会・審判委員会・強化委員会・医科学委員会・柔道事故総合対策委員会の各委員会で検討し、1月24日に開催した第7回臨時理事会にて、発育発達段階における事故防止の観点や柔道のマイナスのイメージを払しょくするため「少年大会特別規程」を添付の通り改定し、中学生の試合においては、絞技を禁止とし、施した場合には「指導」とすることにしました。

この規程は2022年4月1日以降の大会から適用することといたします。

関係各団体におかれましては、以上の趣旨をご理解戴き、各団体関係者及び選手への啓発・ご周知をお願い申し上げます。

【添付資料】

1. 国内における「少年大会特別規程」

【問い合わせ先】公益財団法人全日本柔道連盟 大会事業課 大塚・渡辺・寺下・時田
メール shinpan@judo.or.jp

Decision 1

技が中断せず、継続した場合はスコアである技が中断した場合はノースコア

Decision 2

技有の基準 1

「体側全体」が 90 度以上背中側、もしくは片方の「肩」と「背中上部」が接地した場合技有とする

体側全体が (90 度以上背中側に傾いて接地した場合) 肘が外側に出ているスコアを与える

「体側の全体」は「腰」と「肩」のポジションをみること

Decision 3

技有の基準 2

体側全体が 90 度以上背中側、もしくは片方の「肩」及び「背中上部」が接地した場合技有とする

体側全体が (90 度以上背中側に傾いて接地した場合) 肘が外側に出ているスコアを与える

Decision 4

技有の基準 3

「受」が同時に両手、両肘をついた場合、「取」に技有を与えると共に「受」にも指導を与える

Decision 5

IJF 通称「Rollover counter technique(めくり)」はノースコアである

Decision 6

IJF 通称「Reverse Seoi Nage(逆背負投)」はノースコア、指導である

Decision 7

技の最後の動作で帯より下に触れることを認める（投げた場合はスコアとなる）
技が中断した場合に帯より下を掴んだ場合は寝技としてみなす（スコアやペナルティは与えない）

Decision 8

ポジティブな展開（ブロッキングをしていない場合）であれば「奥襟」と「襟」を認める

Decision 9

帯、片側、クロスグリップ、ピストル・ポケットグリップはすべて標準的な組方ではない
標準的な組方ではない組手の場合、技の準備を行う時間が与えられる

Decision 10

（相手の）組手を片手、もしくは両手で切り、直ちに組手を持ち直してポジティブな展開であれば、「指導」ではない（相手の）組手を片手、もしくは両手で切り、直ちに組手を持ち直さない場合は指導を与える

Decision 11

「柔道衣の直し」、「髪の直し」は 1 試合にそれぞれ一回認められる。2 回目は「指導」である

Decision 12

ヘッドダイブは危険な為、「反則負け」になる

全柔連発第 22-0301 号
2022 年 9 月 13 日

関係各位

公益財団法人全日本柔道連盟
審判委員会委員長 大迫 明伸
(公印省略)

国内大会における「少年大会特別規程」の判断事例について

拝啓 残暑の候、時下ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は本連盟の諸事業に対し格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

今回、審判委員会では、重大事故総合対策委員会ならびに医科学委員会の協力を得まして、少年大会における安全を確立するために、いかなる行為を行えば危険行為としてペナルティが付与されるのかを具体的な事例の映像を作成いたしました。

少年柔道の目的は、少年の健全育成であり目先の勝ち負けではありません。柔道に関わる全ての皆様には、今一度このことを肝に銘じてもらい、柔道を愛する子供たちのために指導にあたってください。

広く普及したい内容ではありますが、危険な場面が多く入っている映像となっております為、各主催団体におきましては、講習会の資料として活用いただき、ルール順守への啓発と普及のご協力をよろしくお願い申し上げます。

記

解説動画：<https://youtu.be/qmgVYiYtU3M>

【問い合わせ先】
公益財団法人全日本柔道連盟
大会事業課
メール shinpan@judo.or.jp

以上

国内大会における「少年大会特別規定」の判断事例（解説動画より抜粋）

※ 解説動画は、YOUTUBE に限定公開されています。一度ご確認ください。

※ 令和4年9月以降の新人大会等において、対応となります。

（日本中体連柔道競技部長 高橋健司先生より）

- 1 きちんとした技を身につける
- 2 ケガしない、させない安全な柔道を目指す
- 3 判断基準の統一
- 4 少年の正しい柔道への提言
 - ・互いに組んで技をかけましょう
 - ・膝をつかず立って技をかけましょう
 - ・倒れこまないで立って技をかけましょう
- 5 両袖、逆背負い投げ→今まで通り
- 6 無理な巻き込みを施すこと
 - ・釣り手を離し、体を捨てて巻き込む 「指導」
 - ・技を仕掛けて相手に返されそうになり、釣り手を離して自らつぶれることは適用しない
 - ・かばい手の場合→スコア
- 7 両膝…同時はもちろん、ほとんど同時
- 8 抑え込み…肩三角グリップ
 - ・抑え込むなどして角に頸部を屈曲させた場合は危険として「待て」